



# 東京YMCA

2017 4 月号

発行所 公益財団法人東京YMCA 発行人 菅谷 淳  
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

## 東京YMCAの使命

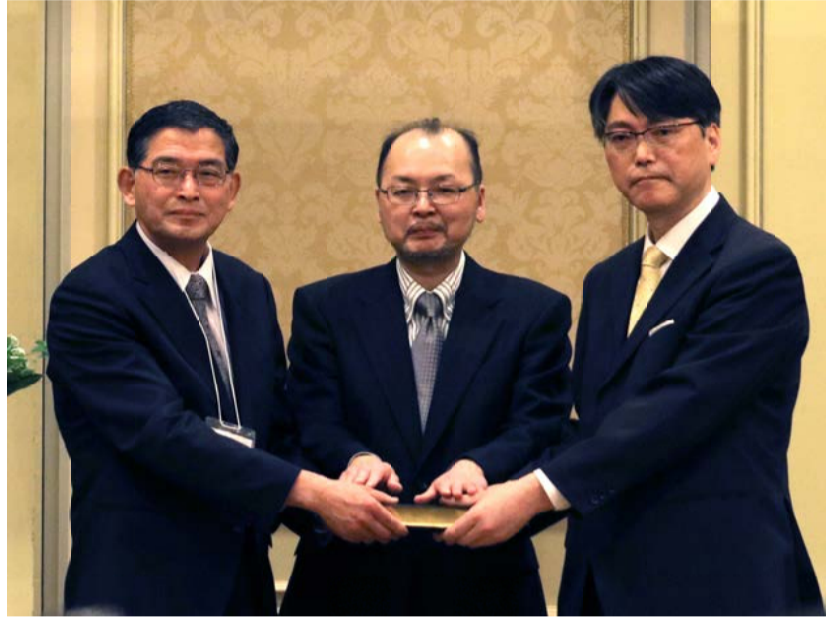
東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

# 総主事交代 第14代総主事に菅谷 淳氏

## 廣田光司氏は任期満了で退任



全国から170人余が出席。当初予定の会場を変更し、リーガロイヤルホテル東京で開催しました。



↑代々の総主事の名が記されている聖書を、新総主事に引き継ぎました。(写真左から)廣田光司前総主事、古賀博牧師、菅谷淳 新総主事。



↑海外からの来賓(写真左から)バングラデシュYMCA総主事ニブン・サンダマ氏、ソウルYMCA会長リ・スハ氏、台北YMCA総主事ジェームズ・トウ氏

→ジャズヴォーカリストの飯田さつき氏とピアニストの森下滋氏。



We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

東京YMCA総主事の廣田光司氏が、3月末日で任期満了により退任し、4月1日付で菅谷淳(すがや・じゅん)氏が第14代総主事に就任しました。

3月19日には新宿区のリーガロイヤルホテル東京を会場に、「総主事就任式」を開催。国内外から集まった170人余りが見守る中で「聖書の引き継ぎ」を行ない、誓

約が交わされました(写真)。司式は、菅谷氏の友人でもある日本キリスト教団早稲田教会の古賀博牧師で、『明日に架ける橋』と題して説教を行った。

奏楽は、オルガニストで本会理事の飯詰子氏。司会は会員の蔵知浩氏。来賓として、バングラデシュ、ソウル、台北の各YMCA代表者から祝辞をいただいたほか、江古田教会の上林順一郎牧師、日本YMCA同盟総主事・島田茂氏、とちぎYMCA代表理事・鷹著孝氏からも温かなメッセージを頂戴しました。

### 退任挨拶

廣田光司

無事に聖書の引き継ぎが終わり、感謝の言葉を述べたいと思います。総主事になって8年、1975年に千葉YMCAに奉職してから42年が経ちました。2009年の就任あいさつで私は、「私がYMCAです」と胸を張って言える職員集団としたいと大きなことを言いました。どれくらい達成できたかわかりませんが、次のリーダーシップにゆだねて期待したいと思います。また在任中には2年間、全国YMCA総主事会議の会長を務めさせて

いただきました。ちょうど東京YMCAが財政難の只中でしたが、全国の仲間を支えられて困難を克服する勇気が与えられました。会員皆さまにもお支えをいただき、財政を再建し、中期計画を策定できたことは大きな喜びであります。4月から私は、千葉YMCAの総主事をさせていただきます。今後共、ご指導・ご協力をお願いいたします。

私は大学卒業後、証券会社に入社しましたが、過酷なノルマと強引な営業に耐えきれず、1年足らずで退職しました。転職先も見つからず、絶望感の中で私は、大学時代の友人である古賀牧師に相談。上林順一郎牧師を紹介していただき、YMCAに入職しました。最初の15年間は専門学校を担当し、その後はとちぎYMCAに9年間出向。熱意あふれる会員方々に家族ぐるみでお世話になりました。

### 就任挨拶

菅谷 淳

第14代の東京YMCA総主事に就任いたしました。

私は大学卒業後、証券会社に入社しましたが、過酷なノルマと強引な営業に耐えきれず、1年足らずで退職しました。転職先も見つからず、絶望感の中で私は、大学時代の友人である古賀牧師に相談。上林順一郎牧師を紹介していただき、YMCAに入職しました。最初の15年間は専門学校を担当し、その後はとちぎYMCAに9年間出向。熱意あふれる会員方々に家族ぐるみでお世話になりました。

東京に帰任後は、主に財務の仕事をさせていただけました。それぞれの場面には恩師とも言える先輩や会員がいて、本当に大切なことを教えられました。この出会いは、神さまが用意してくれました。ありがとうございます。どうぞご指導・ご協力をお願いいたします。(▼2面)「新総主事に聴く」)

### 【説教】明日に架ける橋

日本キリスト教団早稲田教会 古賀 博 牧師

1970年、アメリカの歌手「サイモン&ガーファンクル」が歌った『明日に架ける橋』が大ヒットしました。原題は「Bridge over Troubled Water (荒海に架ける橋)」。この歌がこのところ改めて注目を集めています。2011年9月11日に起きた世界同時多発テロの追悼礼拝で、ある人はこの歌の一節を引用して祈りました。「私たちは分断と悲しみの世界の只中で、荒海に架ける橋になろう」。この人は絶望的な現実を前に自らが「架け橋になろう」と和解への奉仕を祈ったのです。多くの方がこの祈りに共感し、以降この歌は、世界の街角で歌い継がれるようになりました。

旧約聖書「創世記」9章は、「ノアの箱舟」の最後の場面ですが、神は40日にわたる洪水の後に、神と大地との間の契約のしるしとして虹を架けた、と記されています。天と地をつなぐカラフルな虹の架け橋は、今もなお多様性や共存、平和の象徴とされています。3~4世紀に活躍したエウセビオスという司教は、キリスト教の使命を「分裂した世界において、まぎれもない架け橋として仕える」と語り継いでいます。

日本YMCA同盟は昨年、YMCAの方向性を表現するため、「したい何かが見つかり、誰かとつながる。私がよくあるかけがえのない場所」というコンセプトを作成しました。YMCAにとって大切なのは、人と人をつながりを実現することではないでしょうか。孤立し、孤独を感じている人、抑圧や差別を受けている人、そのような人をつないでいく、青少年たちをつなぎ、豊かに育成する、このために橋を架ける。これがYMCAの一つの使命だ、と私は思っています。

新しい総主事、そして彼をサポートする私たちには、この世界に橋を架ける役割が与えられています。荒海のような世界に、共存と平和の虹の橋を架ける、この働きのために私たちは新しい総主事と共に出発したいと思います。私たちの祈りや力がいかに小さくても、希望の未来をひらき、青少年を平和のうちに育成していく、そんな明日を拓く、こうした明日に架ける橋への祈りを、聖書からしっかり聴き取りたいと思います。(まとめ・広報室)

### 赤三角

私のYMCAとの関わりは、小学生時代の神戸YMCA・余島長期少年キャンプに遡ります。以来、私にとってYMCAは、何かが見つかり、多くの人とつながることのできる大切な場所です。YMCAを支援するワイズメンクラブに入会してからは、その活動も私の社会生活の大きな部分を占めるようになっていきました。今、日本のYMCAはブランドコンセプトに基づいて全事業・活動を見直し、その価値を高めようとしています。YMCAのブランドイメージを活動の基盤としているワイズメンクラブにとっては、この取り組みに大いに期待しています。また、各ワイズメンクラブの地域に密着した奉仕活動の推進によってYMCAのブランド力、社会的認知度のアップにつながることも願っています。▼他国に比べ、日本のYMCAとワイズメンクラブは良い関係を築けていると言われていますが、両者が「ポジティブネット」を共有するパートナーとして、一層の協力、協働を進めて行くことで、より豊かな地域社会が実現できると信じています。そのためにも与えられる務めがあれば、微力を尽くしたいと思っています。(東京多摩みなみワイズメンクラブ 田中博之)

# 新しい一歩を 会員と共に

## 菅谷 淳 新総主事に聴く

### 聴き手……星野太郎 新副総主事

#### とちぎYMCA 総主事を経て

●星野― 菅谷さんは「とちぎYMCA」で9年間、総主事を務められました。どんな総主事でしたのか、自己紹介もかねてお話しください。



●菅谷― とちぎYMCAはファミリーの会や会員の集まりがあり、週末には家族も一緒にワイズメンスクラブの行事に参加する。まさに私生活とYMCAとワイズメンスクラブが全部一緒になったような毎日でした。最初は戸惑いましたが、妻と3人の子どもたちも行事を楽しみにするようになり、一緒に育てていただきました。また、とちぎYMCAは規模が小さいので、総主事自らチャリティーランのチラシを作るなど、いろいろなプログラムを自由にできる面白さもありました。

#### 中期計画への思いと抱負

●星野― 2017年度は「東京YMCA中期計画16〜18年」の2年目です。重点項目もあげられていますが（←左枠）、ご自身の抱負や夢をお聞かせください。

●菅谷― 20年近く続いた赤字財政を克服した今、本来YMCAがやるべきことを自由にできる時代になりました。これを機に私は以下の4つに注力したいと考えています。

#### 2017年度 東京YMCA運営基本方針

2017年度の運営基本方針は、以下の通りとする。引き続き、YMCAの理念を深く理解し、会員職員が一体となって、青少年の健全な育成のための事業およびプログラムを積極的に展開する。

1. 中期計画の諸施策の実行  
中期計画で定められた諸施策に優先順位を付して実行に取り組む。
2. 会員活動の活発化  
コミュニティーセンターを充実し、活発な会員活動を展開する。
3. さらなる事業、プログラムの発展  
環境の変化を見つめ、諸事業、多様なプログラムをさらに発展させる。
4. 施設の再配置  
本部機能の移転、東陽町会館の再配置を円滑に行う。
5. 人材育成に注力  
人材育成のために、手厚い研修プログラムを企画、実施する。
6. 新規事業の開発  
社会の変化に対応する新たな活動、事業に挑戦する。
7. 財政の健全化  
引き続き、事業の持続可能性を高めるために財政の健全化に取り組む。



対談する菅谷総主事(右)と星野副総主事(左)

#### 会員運動の活性化とは

●星野― 中期計画の重点項目に、会員運動を活性化させるとあります。具体的にはどんなことをお考えですか？

●菅谷― まず第一に、本場に社会が必要とされるYMCAらしい活動を、会員と一緒にどんどん開拓していきたいと思っています。地域社会の切実なニーズにしっかりと応えていくことで、「こんなに良い活動のたぬなら協力したい」「ぜひYMCAの会員になりたい」と、新たな会員が増えていくと、魅力ある活動を増やしていくことも思っています。魅力ある活動を増やしていくことで会員も増強され、会員活動が活発化していくよう願っています。

#### 東京YMCAの強みと弱み

●星野― とちぎ時代に育園など、会員があまり関わらずに、職員中心で運営している部門も多いですが、その点についてはどうお考えですか？

●菅谷― そもそもYMCAのあらゆる事業は、社会のニーズに応えるために会員の意志によって始められたものだという点を忘れてはなりません。たしかに専門学校や行政との協働事業などは、会員が運営を担うことが難しい面もありますが、専門学校の卒業生などは「支える会員」、つまり会費でYMCAを支える会員になることはできると思います。そうやって東京YMCAのすべの活動が、会員の参画によって成り立っている姿にしていきたいです。また、会員の意見もつとて反映されていくように、会員の代表者としての評議員会長とはいっての意味での緊張関係を保ちたいと思っています。古くから言われるように会員と職員が「車の両輪」となって、バランスのとれた運営をしたいと考えています。

#### 人を幸せにする団体として

●星野― 東京YMCAの強みは職員で、今までの職員たちは、非常に苦しい時代を乗り越えてきた、YMCAを愛する人たちです。それが何よりの強みだと思っています。しかし反面、赤字を出す責任を問われる厳しい時代が続いたことで、どうしても部門の収支だけに固執して、東京YMCA全体を考えると、強みと弱みを感じていて、職員に限らず、会員、参加者、園児、児童、学生、利用者など、乳幼児から高齢者まですべての方々が、YMCAと出会うことによって幸せになつて欲しいと思います。

#### 人を幸せにする団体として

●菅谷― 東京YMCAの一番の強みは職員です。今までの職員たちは、非常に苦しい時代を乗り越えてきた、YMCAを愛する人たちです。それが何よりの強みだと思っています。しかし反面、赤字を出す責任を問われる厳しい時代が続いたことで、どうしても部門の収支だけに固執して、東京YMCA全体を考えると、強みと弱みを感じていて、職員に限らず、会員、参加者、園児、児童、学生、利用者など、乳幼児から高齢者まですべての方々が、YMCAと出会うことによって幸せになつて欲しいと思います。

#### 人を幸せにする団体として

●菅谷― 東京YMCAの一番の強みは職員です。今までの職員たちは、非常に苦しい時代を乗り越えてきた、YMCAを愛する人たちです。それが何よりの強みだと思っています。しかし反面、赤字を出す責任を問われる厳しい時代が続いたことで、どうしても部門の収支だけに固執して、東京YMCA全体を考えると、強みと弱みを感じていて、職員に限らず、会員、参加者、園児、児童、学生、利用者など、乳幼児から高齢者まですべての方々が、YMCAと出会うことによって幸せになつて欲しいと思います。

(まとめ・広報室)

#### <菅谷 淳 総主事 プロフィール>

- 1961年 新潟県生まれ
- 1979年 新潟県立巻高等学校卒業
- 1985年 早稲田大学政治経済学部経済学科卒業  
株式会社日興証券入社
- 1986年 東京YMCA入職  
英語専門学校 教務課、入学相談室長ほか
- 2001年 とちぎYMCAへ出向  
財団法人とちぎYMCA 総主事  
学校法人宇都宮YMCA 学園さくらんぼ幼稚園長  
社会福祉法人とちぎYMCA 福祉会常務理事
- 2010年 東京YMCA 帰任  
財務部、にほんご学院、国際協力部主任主事
- 2014年 副総主事、本部事務局長、財務部・会員部・国際協力部主任主事、危機管理室長、IT室長
- 2016年 副総主事、東陽町移転準備室長、危機管理室長、YMサービス株式会社社長
- 2017年 第14代東京YMCA 総主事

▼日本基督教団市川三本松教会 教会員  
受洗は1987年、日本基督教団早稲田教会で  
▼主事論文「検証 新潟YMCA設立」